

「The下克上 空前の大バトル！」



開幕2連勝！ #111

2017GT 耐久東海シリーズ第2戦が、蒲郡のスパ西浦で開催。五月晴れの蒲郡地方は真夏を思わせる気温、しかしながら空気は爽やかという最高のレース日よりとなった。

一足早い夏全開バトルに血をたぎらせる21チームが臨む。

「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1850ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

開幕戦では出走のなかったEN(エンジョイ)クラスだが、今回は事前プログラム掲載の#79に加え、#9が参加してのバトルが成立。

1+2Cクラスは開幕戦よりも多い11台と今季最高を記録、過去最大級となった。車種も増えてきており、GD/GEの各世代フィット、81スイフトスポーツ、EG/EKシビック、NCP/SCP(SCPはリッターカー)のヴィッツ、個性派のデミオ、マーチそしてNA/NBのロードスターとバラエティにとんでいる。

そのなかでも注目は、開幕戦優勝の#111「T-FACTORY フィット」と強豪#110「アライメント浜松スイフト」の争い。昨年の最終戦から連勝中の#111「T-FACTORY」、今季はいよいよチャンピオンを狙う。

一方マシンをチェンジして2戦目となる#110「アライメント浜松」、まずは1勝が欲しい。それに加えかつてのチャンピオンチームで、フィット遣いの#15「SSG☆フィット」が参戦と好バトルの予感。



むむ、今回も2位 #110

■予選

予選トップは#110「アライメント浜松スイフト」1'03.045、このマシンとしては初めてそしてなんと全体のトップという、快挙を達成した。「後ろはすごいマシンばかりですので…」とチーム関係者も恐縮するPPだ。

2位は#15「SSG☆フィット」が1'04.169、久しぶりの出場ながら、こちらも相変わらずのパフォーマンスを披露。マシンのには「それほどは変わっていない」(チーム関係者)とのことだが、細かいモディファイは施されているようだ。

3位#11「アンリミ DXL シビック」1'05.219、惜しくもトラブルに見舞われた開幕戦の雪辱に燃える。

4位#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」1'05.543、爆発的な速さを見せた開幕戦とは異なり、予選はこの位置からスタート、むしろ不気味か。

5位#16「えっ！テンロク？ロードスター」1'05.601、レギュレーション的にはOKの「前部空力装置」が目玉だが、その効果かテンロクとしては上々のタイム。

6位#70「ウエリースシビック GT」1'05.687、7位#67「みかんちゃんデミオ」1'05.729、と接近。

8位#222「T-FACTORY フィット」1'06.729、T-FACTORY チームのもう1台のフィットはこのポジション、こちらは黄色のマシン。

9位#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」1'06.914、唯一の1クラス車両。10位#870「MSCJ 東海マーチ」1'07.667、11位#911「ブラウニプリントアーツヴィッツ」1'08.425、12位#50「MSCJ 奈良ロードスター」1'09.390で全車予選通過。

以下 EN クラスの1位#9「深海 2500 スイフト」1'09.985、#79「NAC レーシング部 VitzRS」1'14.270。両者とも全車決勝。

EN クラスも入れると14台にもなる、史上まれに見るライトスポーツ決戦の幕が上がる。



実力健在 #15



シビックバトルを制して4位 #11

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■序盤

オープニングこそ全体のトップを 3C&OP に譲るが、最初のステイントをトップで行く#110「アライメント浜松スィフト」、それをマークするのは#15「SSG☆フィット」、#70「ウエリースシビック GT」あたり。

開幕戦優勝の#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」は早めのピット作戦のようだ。

#11「アンリミ DXL シビック」、#222「T-FACTORY フィット」が上位をうかがう。

中段は#50「MSCJ 奈良ロードスター」、#67「みかんちゃんデミオ」、#16「えっ！テンロク？ロードスター」のマツダ車。

さらに、#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、#870「MSCJ 東海マーチ」と続く、K 耐久と合わせて 2 台体制で臨む#911「ブラウニプリントアーツヴィッツ」だが、いまひとつ伸びてこない、何かのトラブルでなければよいのだが。

EN クラスは#9「深海 2500 スィフト」が先にピットイン、#79「NAC レーシング部 VitzRS」はステイアウト。

■中盤

中盤では実力派チームががっぷり組んでの三つ巴。#15「SSG☆フィット」、#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」、#110「アライメント浜松スィフト」その差は僅か。

中段はシビック同士のバトル、先行は#11「アンリミ DXL シビック」、#70「ウエリースシビック GT」が追う。

さらにそれに続き 1 クラスマシンの#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、#222「T-FACTORY フィット」、#50「MSCJ 奈良ロードスター」、#67「みかんちゃんデミオ」、#870「MSCJ 東海マーチ」。

心配だった#911「ブラウニプリントアーツヴィッツ」だが、エンジンのヘッドが割れるというトラブルでリタイヤ。さらに#16「えっ！テンロク？ロードスター」も液体漏れと思われる現象から、ピットでの修復に入った。

EN クラスは実力伯仲#9「深海 2500 スィフト」が先行するが、同一周回で#79「NAC レーシング部 VitzRS」も追いかける。

■終盤

ゴールまであと 1 時間、トップ 3 台は相変わらず鏝迫り合いを続ける。#110「アライメント浜松スィフト」が僅かに先行、#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」、#15「SSG☆フィット」の順だが、まだ最終ステイントではない。

中段のシビックバトルも相変わらずだが、#50「MSCJ 奈良ロードスター」と#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」が絡んできた。#39 はリッターヴィッツ、一回少ないピットワークを活かせるか。

それに続く集団も混戦模様、#222「T-FACTORY フィット」を先頭に、#67「みかんちゃんデミオ」、#870「MSCJ 東海マーチ」。

#16「えっ！テンロク？ロードスター」は安全に配慮することを最優先で、コースに復帰、チェッカーを目指すこととなった。

なんとここへ来ても EN クラスの 2 台は同一周回バトル。思いっきりレースの醍醐味をエンジョイしている。だが最後に栄光をつかむのは 1 チームのみだ。



13B？気分はロータリー



こちらは 5 位 それにしても僅差だ #70



唯一の 1 クラスマシンは 6 位 #39



黄色のフィットは 7 位 #222



オレンジはデミオだ #67

Race Report

■最終結果

最後まで接戦を演じたトップ争いも決着。残り 20 分を切った最終ステイントでトップに立った#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」が逆転優勝。終盤の追い上げの局面でタイヤ交換を敢行し、ペースを上げたのが効いたか。

2 位は#110「アライメント浜松スイフト」、途中までは得意のパターンかと思っただが 48 秒差で 2 位、スイフトでの初優勝はお預けだ。

3 位は#15「SSG ☆フィット」、終盤の失速は痛かったが、さすがは”激速フィット”の火付け役、序盤から中盤にかけてのレース運びはそのポテンシャルがいまだ健在を見せつけた。

4 位はシビックバトルを制して#11「アンリミDXLシビック」、7 秒差の 5 位には#70「ウエリースシビック GT」。6 位はさらに 10 秒差で#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、終わってみればここも僅差の三つ巴だった。

7 位は#222「T-FACTORY フィット」、8 位#67「みかんちゃんデミオ」、9 位#50「MSCJ 奈良ロードスター」とオレンジ黄色系が並んだ。

10 位は#870「MSCJ 東海マーチ」、そして途中心配された#16「えっ！テンロク？ロードスター」も規定周回数をクリアして完走。

全くの互角バトルを演じてきた EN クラスの 2 台だったが、最終盤にドラマが… #79「NAC レーシング部 VitzRS」がガス欠と見られる症状でピット出口先のストレートで止まってしまいコース外に出されジ・エンド。規定上は最下位完走なので 2 位表彰台獲得。



NAvsNB は NA の勝ち #50



なかなかのインパクトです #16



マーチもなかなかいいですね #870



ガチバトルでの総合チェッカー！！



全体 PP も 1+2C が獲得



残念 #911



最後まで目の話せない戦いを制した！ #9

■総評

過去最大級の大バトルを制したのは、#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」、なんと総合優勝のチェッカーだ。

かつて1クラスマシンのリッターヴィッツが、総合優勝を飾った記録があるが、あれは雨のなかで、しかもSCでレースが一旦止まるという条件が揃ったものだ。今回のフィットは、文字通りのガチバトルの末の総合優勝というのはGT耐久東海シリーズ始まって以来のこと。

決勝では2位だった#110「アライメント浜松スイフト」は予選では総合PPだったし、この2台のレース中の最速Lapはともに03秒台中盤というまさに速さでも優勝にふさわしいものだった。

さらに、今回はどのポジションにおいても極めて差の少ないレースだった、中段のシビックバトル、マツダ車バトル、さらにはENクラスの同一周回バトルなど本当に各チームの力の差は接近していると感じさせる戦いだった。

チャンピオン争いでは開幕2連勝の#111「T-FAC リキモリ剛式フィット」が一步リード。#110「アライメント浜松スイフト」は初勝利がほしいところだ。

今シーズンのスケジュールでは次戦は9月、秋の天王山に向けて、各チームがどんなインターバルを過ごすのか、楽しみにしていきたい。



最後に力尽きたか・・・ #79



1+2C クラス



EN クラス



実に7年ぶりの優勝！ #106



チャンピオン争いではリード #62



こちらも久しぶりの表彰台 #56



最後まで走りきって4位 #405



3秒台に入れるなど速さもあるぞ5位 #22

「3C」クラス(1501cc以上のNA車と、1201cc以上の過給機付き車のクロズドクラス) + 「OP」クラス

クラス統合の初戦となった開幕戦では3Cの#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」がその記録に名を残した。今回は3Cが5台、OPが2台の計7台がエントリー。

■予選

予選トップは#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」(3C)が1'03.159、開幕戦を勝利で飾り、その速さが健在であることを証明した。連勝で波に乗っていきたくところだ。

2位は#106「D&M スパイクオート 106」(3C)1'03.869、欧州ホットハッチの雄もエンジンパワーでは少々分が悪い。それでも引き出しを持つのも有力チームのなせる技、セカンドローから決勝では逆転を狙う。3位は#22「NAHレーシング S2000」、(3C)1'03.939、ノーマル状態でも高いポテンシャルを持つS2000は3Cにおけるベストチョイスの1台。車両価格が高いのがネック。

4位#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」(3C)1'05.008。岡山を本拠地とする名門チーム。連休中の5月7日にオートポリスのゴールドカップを戦ったばかりのチームは、マシンをGT耐久仕様にもディファイしての参加だ。

5位#405「インフィニティー FX」(OP)1'05.274、ご存知「青春の4A-G」、今日もサウンドがこだまする。

6位#77「ウエリース ロードスター GT」(OP)1'05.604、こちらはS2000に比べ手軽なのが魅力、ただ最近ベース車の数が減ってきているのが心配だが。

7位は初参加の#76「スクーデリアホンダシビック」(3C)1'09.954、まず予選はクリアだ。

■序盤

スタートから首位に立つ#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」、2位は#405「インフィニティー FX」、3位#77「ウエリース ロードスター GT」のトップ3。

4位は#22「NAHレーシング S2000」、早めにピットに入った#106「D&M スパイクオート 106」が5位、6位も同じ戦略か#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」。

7位#76「スクーデリアホンダシビック」のオーダーで序盤が進行。

ちなみに#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」には20kgのウエイトハンデ、OPクラスマシンには、ピットストップ時30秒プラス(ピット回数は同じ)のタイムハンデが課される。

■中盤

中盤では各車のピット戦略もあって順位変動が多い。さらに#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」が他クラス車と接触、その際パイロンを破損したことでコースチェックの意味も含めSCの出動となる。

一旦落ち着いたあとの順位は#106「D&M スパイクオート 106」が首位、久しぶりのトップ走行だ。2位はトラブルにもかかわらず#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」。3位は本命#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」。

4位#405「インフィニティー FX」、5位#22「NAHレーシング S2000」と続き6位#76「スクーデリアホンダシビック」。#76もペースを掴み上位陣と遜色ない4秒台のタイムを記録。7位#77「ウエリース ロードスター GT」。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

終盤でトップに立つのは#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」、残り1時間でちょうど100Lap。#106「D&M スパイクオート 106」は98Lap、3位#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」も98Lap。優勝争い&表彰台はこの3台のようだが、まだまだわからない。

第2グループとしては#405「インフィニティー FX」96Lap、#22「NAHレーシング S2000」95Lap。

さらに#76「スクーデリアホンダシビック」94Lap、#77「ウエリース ロードスター GT」92Lap。

各チームともまだまだピットストップも残っており、もうひと波乱あるか。



中盤からは速さも披露して6位 #76

■最終結果

残り30分ではさらに混戦に、トップ2台は同一周回。3位は1Lap、4位もさらに1Lapの差となっている・・・はたして勝負の行方は。

最後にトップにいたのは#106「D&M スパイクオート 106」！！実に7年ぶりの表彰台の頂点。

2位は最後にもうひと伸びを欠いたか、#62「WN☆ワコーズ☆CLNシビック」、同一周回ながら15秒ほど届かなかった。

3位は1Lap差で#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」で、ここまでが表彰台。

4位#22「NAHレーシング S2000」、5位#405「インフィニティー FX」、6位#76「スクーデリアホンダシビック」、7位#77「ウエリース ロードスター GT」と全車完走。



今ひとつリズムが悪かったか7位 #77

■総評

今回は何と言っても7年ぶりの優勝を飾った#106「D&M スパイクオート 106」。同じテンロクツインカムとは言え、カタログデータで50PS程も劣るVTECに真向勝負で打ち勝った。ドライバー・マシンメンテナンスなどの総合チーム力の勝利。

一方敗れたとは言え、やはりこちらも実力派。どうやら今年のチャンピオン争いは熱くなりそうな予感だ。

そして岡山から九州そして蒲郡と遠征の、#56「小田川運送 MMS 岸本シビック」も久しぶりの表彰台。帰りのえびせんではさぞたくさんお土産を買い込んだことでしょう。



3C&OP クラス

